

夜明け

縣神社 宮司 田 鍬 到 一

春復へり 一掘するに泉湧く
神の御業よ 栗隅の縣

縣神社は大化改新以前、国郡制度の出来る前に、この宇治川兩岸に広がる地域が宇縣、宇治縣と称せられた時代に、縣の守護神として創建された古社であります。

その永い歴史のなかで表舞台から姿を消していた時代もありましたが、江戸の中頃になりますと人気の神様として信仰を集めるようになります。そして中河内を中心として関西一円に縣祭の信心講が広がりました。また北河内一帯の村々は初縣祭の月参講を形成していきました。

しかし社会状況の激変、生活様式の変容により、この五～六十年の間に、それ等の諸講社は次々と消えていきました。その過程で平成七年に木の花会再発足となり、大変革期に入りました。

そこで木の花会の力を得ることにより遂に平成十六年には復古が成立し、ここに縣の維新元年を迎えることが出来ました。この時に梵天講が生まれ、この笛吹くや会が生まれ、ケロケロ座も生まれました。また数年前には開耶会も生まれました。この二十年間は縣神社の歴史と文化を護るために専念し、維新の土台作りが出来たと自負いたしております。

私も五十年余、微力ながら御奉仕をして参りましたが、何とか無事に辿り着くことを得たのは、皆さまの合力によるものと深く感謝いたしております。

さていよいよ夜明けです。新しい時代の始まりです。新しい時代を新規開拓するには新しい力が必要です。奥村禰宜に後事を委ねることにいたしました。

この世界に入り六十年を経た老兵の、今まさに去らんとするに及んで「隠居修業は如何となす」と問う人があります。私はやっと自由を得る喜びと共に、白楽天の詩にある「七十八十病纏ふ」の一句が身にしみて、不安と淋しさを感じております。そして余生は私の好むところに従いたいと念じております。



令和五年三月二十三日 慕回処士

はじまり

音曲ケロケロ座 秋元道弘



鳥のさえずりを聴き、はっとして窓に寄る。夜明け前のバルコニーに来ている。ウグイスだ。調子外れのさえずり・・・初音というのは聴く者の主観で、鳥君のおそらくもう幾度目かの稽古を私は聴いているのでしょう。ウグイスは硝子窓を隔ててどんな気配も感じとるのは耳がいいのか眼がいいのだろう

うか。もう飛び去って姿も声もない。飛んだ先を追うつもりで私は棕ノ木を見とおす。バルコニーに出たら必ず視るのだ。縣神社のご神木、おおきな棕ノ木を。

棕のふもとに、田鍬宮司と奥さまとペペが在り、その周り一帯を縣神社という。そこに古い井戸があり、ちいさな畑や、椿や銀杏、なによりあの枝垂れ桜があり、そのあたりにいろんな男やら女やら集まって、耕したり縄を縄ったり竹を割ったり掃除したり炊事したり歌ったり踊ったり・・・みな好きでやっていることが、どうしてか寄りそうようになって、縣神社の日々に彩りを加えた。縣神社のそうした一時期に生業以外の大半を神楽殿で過ごし、大太鼓をつくったり、楽太鼓を修繕したり、台風で破れた格子を繕ったり、ついには音曲ケロケロ座として、このはなさくやひめさまのお芝居を主宰したり。私が好きでやることさえが縣神社の魅力をすこしでも鮮やかに発露する助けとなったと感じ、それは宮司の人となりゆえのことですから有り難いばかりです。大先輩の笠井神楽のお歴々からみて私どもが神楽殿でうろうろすることはもちろん邪魔でしかないのだから、邪魔が認められるようになろうと、神楽殿の掃除、座布団の日干し、蚊取り線香焚き、冷たいおしぼりの準備・・・とうとう朽ち果てようとする楽太鼓を立派な楽器としてよみがえらせたとき、それを一打した太鼓方の姉御(?)の嬉しそうな顔は忘れられません。

やがて奥様が旅立たれ、ペペがはなくなり、そして、音曲ケロケロ座は神楽殿から芝居の大道具・小道具すべてを撤収し、大掃除しました。新しく始めるために、すべて綺麗にしたのです。

来たる2023年6月5日に、私どもはまったく新しい創作神楽をこのはなさくやひめさまの御前に奉納いたします。なによりも田鍬宮司と受け継ぐ宮司様に見ていただきたい。そして、今はなき奥さま、ペペにこの新作神楽を捧げます。どうか新しいはじまりをご覧ください。



梵天講（開耶会）の一年

講 長 後 藤 博 史

3年ぶりの渡御が無事に終わった。

講長になって初めての渡御、失敗は出来ない中、皆さんに迷惑をかけずに無事に終わってホッとしたのも束の間、次は直会って時にまたもやコロナが蔓延してしまい、結局は延期からの中止になってしまった。

しかしその予算で、古くなった提灯を新調させていただいて、提灯出しやしめ縄作りなど…色々なご奉仕もさせて頂いた。

そして年末の振る舞いの打合せ、中止は無い決行の満場一致！！今年度はポスターを作り、近所や各関係各位に配布する。前回と同じく抹茶善哉の振る舞いの準備をし、当日は昼からテントを張りガスコンロの準備をする。21時に集合

して23時半からの振る舞いをする為に仕込みをする。

そしていよいよ23時半から450杯分の抹茶善哉の振舞いの開始！“善哉と白玉の温め抹茶”を点てる係り、プラスチックの器に善哉と白玉と抹茶を入れてスプーン共でお渡しする係り、以前に数回しているので必然に担当が決まっていた、それぞれの持ち場で作業が出来た。

平等院の除夜の鐘をつく為に並んでいる人達に、縣神社で振る舞いをしている事を伝えに行くと、これが前回と同じく大好評で、バスガイドさんが先導して観光客を連れて来てくださり、近所の人たちも振る舞いを楽しみに行列ができて光景を見て、成功を確信した。寒い中並んでくださる姿を見て、本当に嬉しかった。

この年末の振る舞いに理解と奉仕をしてくれた皆様に感謝して、また続けて行きたいと思った。



献 茶 祭

入 江 一 徳

まずは献茶祭、茶壺口切の儀が無事に執り行われましたことに感謝申し上げます。

初めての奉仕にあたって当然緊張はございましたが当日は落ち着きをもって進行できました。皆様の大切な茶葉を無事奉献出来たことを嬉しく誇りに感じております。

この度は父親との奉仕となりました。少し私的な話になってしまい申し訳ございませんが、知人からは祖父が親子で奉仕出来ることを楽しみにしていたと聞いております。祖父の頃に実現することはなかったようですが、私共の代で実現したことを喜んでくれていればと存じます。

口切の儀、その本質は皆様よりお預かりした茶を奉献することにございます。今後奉仕させていただく機会があればその思いを忘れず誠意をもって挑んでまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



「この笛ふくや会」に寄せて

この笛ふくや会 山口 真有香



「この笛ふくや会」に参加させて頂くようになって、早いもので10年以上が過ぎました。

それまで和楽器の心得はありませんでしたが、皆様の温かいご指導のもと、笛や拍子木を演奏させて頂き、気がつけば、6月5日のあがた祭りは私にとって年に一度の大切な行事となりました。

また護摩焚きの際には楽舞を奉納させて頂くのですが、燃え盛る炎の前でゆるやかな調べの「柏木」という曲に合わせて鈴を振り、拍子を踏むと身の引き締まる神聖な気持ちになります。

しかし、2020年の春頃から本格的に拡大し始めた新型コロナウイルス感染症の影響で、お祭りの奉納は3年間中止となってしまいました。新年を迎える「今年こそ」と願い続け、ようやく本年、再開の時です。

いまだ社会の全てが落ち着いた訳ではありませんが、楽舞や演奏の奉納を通して、少しでもお祭りを賑やかに盛り立て、ご奉仕できればと思います。



奉納

《花手水》
花和商店様

境内石畳 改修

Before



After